

教育長日記 (令和 2年 12月 24日)

青い空に浮かぶ 白い雲 162

-感性を大事に育てる-

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美

生活を工夫し 健康で
よいお正月をお迎えください

新型コロナウイルス感染症の拡大により、心配が更に広がってきています。そのうえ、この先のインフルエンザの流行も心配です。

東大和市の小学校、中学校は、12月25日(金)が子どもたちにとって待ちに待った二学期の終業式です。子どもたちは、来年1月7日(木)までが冬休み、家族と一緒に健康な生活を送ってほしいと思います。

学校は、新型コロナウイルスが感染しはじめた頃から、児童・生徒の健康安全に更に力を入れ、対応してきました。また、保護者の方々にも様々な場面でお力を頂いてきました。心より感謝を申し上げます。



《明るいみんな》

学校を訪問しますと、マスクを着用した小・中学生が真剣な顔で学習を続けています。校長先生をはじめ教職員の方々による環境づくりにも感心しました。教室内の密集の回避、定期的な換気、手を洗うところの廊下に記された矢印、職員室の座席の向きをすっかり変えた学校、手作りのビニールによる間仕切り、3密回避に努めている様子を至る所で目にすることができました。また、心配を取り除くために、学校では「新しい生活様式・新しい学校生活の工夫」等、これまでとは違った取組を考え、提案・実践しています。今後も様々な工夫や提案が出されることを期待しています。

私が港区立御成門小学校校長の頃、わんぱくな子どもがいて、勝手なことを言っては先生たちをてこずらせていました。しかし、その一方で、その子は感情が豊かで心の琴線に触れるようなことがあると、大粒の涙を流して泣く子でもありました。

校長の私に対しても悪態をつくことがありましたが、いつのころからか校長室に来て、私が育てていた金魚と一緒に飼うようになりました。

はじめのころは、餌を山ほど入れて私に叱られることもありましたが、二人で育て始めた金魚は丸々と大きく育っていききました。

その子が卒業した年に、わたしも定年まで一年を残し退職をしました。

風の便りでは、中学生になったその子が、その後も時々校長室にやってきては、金魚を見つめ思い出したように「校長先生に会いたいなあ・・・」とポツリと言って帰っていくということでした。

今や指先で素早く操作できることが必要な時代です。しかし、そのことと合わせて「心の感性」を育てることの大切さも忘れてはならないと思います。

金魚

